

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	埼玉機器株式会社 新本社・工場建設計画	階数	地上3F
建設地	埼玉県富士見市大字上南畑字下田	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、準防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,880 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年9月29日
敷地面積	33,823 m ²	作成者	
建築面積	14,920 m ²	確認日	2025年9月30日
延床面積	20,622 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 建物外皮の熱負荷が少なくなるよう努めている。 ライフサイクルCO ₂ 排出率を80%以下に抑えている。		その他
Q1 室内環境 ほぼ全面にF☆☆☆☆の建築材料を採用している。 建物内を禁煙としている。	Q2 サービス性能 執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保している。 階高を3.9m以上としている。	Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化指数を40%以上としている。
LR1 エネルギー BPI _m = 0.66 BEI _m = 0.68	LR2 資源・マテリアル ODP=0、GWP=11の断熱材を採用している。	LR3 敷地外環境 隣棟間隔指標R _w を3以上としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 埼玉機器株式会社 新本社・工場建設計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.34		-	3.0
1 音環境						3.0	0.15		-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		-	
1.3 吸音						3.0	0.20		-	
2 温熱環境						2.9	0.35		-	2.9
2.1 室温制御						3.2	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38		-	
2 外皮性能		SC=0.45、外壁 U=0.34、屋根 U=0.12				4.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						2.0	0.20		-	
2.3 空調方式						3.0	0.30		-	
3 光・視環境						2.9	0.25		-	2.9
3.1 昼光利用						3.4	0.30		-	
1 昼光率						3.0	0.60		-	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備		ハイサイドライトを採用している。				4.0	0.40		-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-	
1 昼光制御						3.0	1.00		-	
3.3 照度						2.0	0.15		-	
3.4 照明制御						3.0	0.25		-	
4 空気質環境						3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		ほぼ全面にF☆☆☆☆の建築材料を採用している。				4.0	1.00		-	
4.2 換気						2.3	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.33		-	
2 自然換気性能						3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33		-	
4.3 運用管理						4.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		建物内を禁煙としている。				5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	3.2
1 機能性						2.9	0.40		-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40		-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						3.3	0.30		-	
1 広さ感・景観						3.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保している。				4.0	0.33		-	
3 内装計画						3.0	0.33		-	
1.3 維持管理						3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材や塗料を採用している。				4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種以上にB以上を使用し、Eは使用していない。				5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を3.9m以上としている。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.04	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラックを採用している。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラックを採用している。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.36	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m] = 0.66	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトを採用している。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.68	4.2	0.50	-	-	4.2
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生加熱アスファルト 舗装路盤に再生材使用	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		下地にLGSを採用している。	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=11の断熱材を採用している。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2 = 0.78	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	埼玉機器株式会社 新本社・工場	BEE	1.2	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.8	+	2.0	=	5.8 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.8
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
<配慮した内容を記述>			
ライフサイクルCO2排出率を80%以下に抑えている。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
外構緑化指数を40%以上としている。 隣棟間隔指標Rwを3以上としている。			

:入力欄